

株式会社VLCセキュリティ

2026年3月期 決算説明資料

2026年5月15日

The slogan 'GoBeyond!' with a yellow triangle pointing right to the left of the text.

サイバーセキュリティが未来を加速する

“Accelerate the Future with Cyber.”

INDEX

【2026年3月期 連結業績等】

| | |
|---------------------|----|
| ■ 連結決算のポイント | 3 |
| ■ 連結P/L概要 | 5 |
| ■ ソリューション別業績 | 6 |
| ■ ビジネスハイライト | 7 |
| ■ 連結B/S概要 | 10 |
| ■ 連結業績推移 | 11 |
| ■ 前期の振り返り | 12 |
| ■ 2027年3月期通期連結業績見通し | 13 |
| ■ 今期の主方針 | 16 |

2026年3月期 連結業績等

- 売上高： 1,365百万円（前期比▲239百万円、▲14.9%）※
- 営業利益： ▲388百万円（前期比▲117百万円）※

※ 2025年3月期（前期）1Qはマーケティング事業含む。2024年7月1日付のマーケティング事業の連結子会社MSS（以下「MSS社」）のデータセクション社（以下「DS社」）への完全子会社化により2025年3月期（前期）2Qよりセキュリティ事業のみ計上

- ・ 組織体制とソリューション強化による受注数、受注率及びリピート率の着実な向上の推進
- ・ サイバーセキュリティトレーニングアリーナの集約などにより売上は前期比減
- ・ 包括的業務提携パートナーのDS社とのAI・サイバーセキュリティ分野での事業連携に向けた体制構築（協業先の開拓、要員確保、ソリューション開発など）を推進
- ・ DS社との事業連携の本格稼働の遅延による売上の伸び悩み

売上高

1,365百万円*

主な要因

- ・ 組織体制とソリューション強化による受注数、受注率とリピート率の着実な向上、顧客層の拡大があったものの、サイバーセキュリティトレーニングアリーナの集約などによる売上減
- ・ DS社との事業連携に向けた体制構築（協業先の開拓、要員確保、ソリューション開発など）の推進を進めたものの、事業連携の本格稼働の遅延による売上の伸び悩み

セキュリティ事業

2026年3月期連結決算のポイント（2 / 2）

- 前述のとおり、2025年3月期（前期）1Qはマーケティング事業含む。2024年7月1日付のマーケティング事業のMSS社のDS社への完全子会社化により、2025年3月期2Qよりマーケティング事業の計上は無し
- マーケティング事業単体の業績を控除した前期比は、売上高、営業利益ともにサイバーセキュリティトレーニングアーナの集約などにより減

| | 2026/3月期 | 前期マーケティング事業含む | | 前期マーケティング事業除く | |
|----------|----------|---------------|------------------|---------------|-----------------|
| | | 前期 | 今期差額 (伸長率) | 前期 | 今期差額 (伸長率) |
| (単位：百万円) | | | | | |
| 売上高 | 1,365 | 1,605 | ▲239 (▲14.9%) | 1,466 | ▲100 (▲6.9%) |
| 営業利益 | ▲388 | ▲270 | ▲117 | ▲258 | ▲130 |

2026/3月期（連結）

| | 金額 | 2025/3月期比 | | 2026/3月期 通期業績予想 |
|---------------------|-------|-----------|--------|--------------------|
| | | 増減額 | 比率 | 金額 |
| (単位：百万円) | | | | |
| 売上高 | 1,365 | ▲239 | ▲14.9% | 1,950 |
| 売上総利益 | 606 | - | - | |
| 販管費 | 994 | - | - | |
| 営業利益 | ▲388 | ▲117 | - | 100 |
| 経常利益 | ▲372 | ▲100 | - | 95 |
| 親会社株主に帰属 する当期純利益 | ▲385 | ▲75 | - | 65 |

■ 売上高：

- ・ 新規受注、リピート案件やストック型売上の着実な拡大の推進

■ 売上原価・販管費：

- ・ 組織体制とソリューション強化やDS社との事業連携に向けた体制構築に投入

■ 各段階利益：

- ・ 各段階利益は前期比で減少

- ・ 前期1Qはマーケティング事業を含み、DS社との事業連携の本格稼働の遅延による売上の伸び悩み、サイバーセキュリティアーナの集約などにより、前期比で売上高及び各段階利益は減少

※当期純利益は特別利益による差異

- ・ MSS社の譲渡分に代わる収益柱の顕在化を推進しつつも、各段階利益は赤字着地

- 新規顧客獲得や大口案件パイプライン増加、関連法の改正需要も一段落したものの、安定的推移
- サイバーセキュリティトレーニングアリーナの集約などにより売上減少
- 包括的業務提携パートナーのDS社との事業連携に向けた体制構築を推進したものの、本格稼働の遅延による売上の伸び悩み

売上高 (2026/3期)

1,365百万円

前期比 ▲108百万円 同 ▲6.9%

| (単位: 百万円) | 2026/3月期 | 2025/3月期 | | |
|-----------------------|----------|----------|-----|---------|
| | | 金額 | 増減額 | 比率 |
| セキュリティトレーニングソリューション | 389 | 485 | ▲96 | ▲19.80% |
| セキュリティ診断・調査ソリューション | 438 | 391 | +47 | +12.09% |
| セキュリティコンサルティングソリューション | 537 | 590 | ▲52 | ▲8.82% |

セキュリティトレーニング ソリューション

- トレーニングアリーナの集約などにより、売上減
- 継続的に主要なメディアでも紹介されるなどブランドが大きく浸透し、新規顧客獲得や大口案件、大企業・官公庁などのパイプラインが拡大
- セキュリティ人材アセスメントサービスの大型受注獲得。アセスメントを入口とした来年度の各トレーニング受講への布石作りに大きく付与

セキュリティ診断・調査 ソリューション

- インシデントレスポンスを起点としたサービスやディスクバリアなどのストック型収入の着実な積上げ
- 新規協業先の開拓により、販売チャンネルが拡大し、大企業からのパイプラインも増加傾向
- 官公庁関係に限らないCTF開催や選別されたイベントなどへの出展を通じて継続的なブランド浸透

セキュリティコンサルティング ソリューション

- 情報セキュリティ規格のコンサルティング売上も関連法の改正需要もひと段落したものの、既存顧客からの運用・更新案件は安定的に推移
- セキュリティ対策ニーズの高まりを受け、リスクアセスメントサービス『V-Sec』、CSIRT構築支援、インシデント対応支援コンサルティング案件が増加も、ソリューションビジネスへの事業拡大が図れず
- スtock型収入の積上げのため、官公庁で策定推進の新規制度の支援サービスの開発に着手

- 今後の収益化に繋がる提携や協業
 - サイバーセキュリティクラウド社と、拡大するクラウドセキュリティ需要に対応するため営業協業について合意、クラウドセキュリティ提案を強化
 - ランサムウェア対策ソリューションのポートフォリオ強化としてランサムウェア対策プラットフォーム『Halcyon』の取り扱いを開始
 - アラブ首長国連邦（UAE）ドバイに拠点を置くナショナル・アクセラレーター企業であるNational Pulse Group社とUAE、及びその他中東・北アフリカ（MENA）地域でのAI・サイバーセキュリティ分野での事業提携に向けた覚書締結
- 「サプライチェーン強化に向けたセキュリティ評価制度」に対応したアセスメントサービス『V-Sec GC SCS 評価制度』の提供開始
- ISMS/Pマーク取得・運用支援ツール『V-Cloud』リニューアル
- 警視庁及び警察庁、並びに陸上自衛隊等の防衛関係の人材育成トレーニングの継続実施
- ランサムウェア攻撃を想定した『ペネトレーションテスト 標準シナリオ』のリリース
- 企業のサイバーセキュリティ状況を可視化するサービス『SecurityScorecard（セキュリティスコアカード）』の提供開始
- その他：コンソーシアム複数団体への入会及び活動開始。事業・組織拡大に向けた提携・買収先の模索を推進、有力な協業パートナーとの継続協議。事業収益のストック化の推進

- 包括的業務提携パートナーのDS社とのAIデータセンター関連事業に向けたサイバーセキュリティ・ソリューションの提供に向けた体制構築（協業先の開拓、要員確保、ソリューション開発など）を推進
- 2025年10月6日をもって『株式会社VLC（バイエルシー）セキュリティ』へ商号を変更
- グループ全体のブランドを統一すべく、当社グループ各社の商号も変更
- コーポレートサイトの刷新（VLCセキュリティに加えて、コンサルティング、アリーナ、ラボの3社も2026年2月9日に公開完了）
- 2025年1月27日開催のCyber Tech Global Tel Aviv 2026にCYBEGYM IEC（イスラエル）と合同参加：「More Insights on Fast Changing Cyber Threats in the AI Age」と題したパネルディスカッションに弊社代表の石原が登壇し、AI時代におけるサイバー脅威の急速な変化と、その対応に関する知見を共有

2026/3月期 (連結)

| (単位：百万円) | 2025/ 3月末 | 2026/3月末 | | |
|----------|--------------|--------------|-------------|--------|
| | 金額 | 金額 | 増減額 | 前期末比 |
| 流動資産 | 721 | 602 | ▲118 | 83.6% |
| 固定資産 | 583 | 594 | +10 | 101.8% |
| 繰延資産 | 0 | - | ▲0 | - |
| 総資産 | 1,305 | 1,196 | ▲108 | 91.7% |
| 流動負債 | 340 | 306 | ▲33 | 90.1% |
| 固定負債 | 428 | 307 | ▲121 | 71.7% |
| 純資産 | 536 | 583 | +47 | 108.8% |
| 自己資本比率 | 40.5% | 48.5% | +8.0 | - |

<前期末比>

■ 流動資産：

- 現金及び預金142百万円減などで118百万円の減少

■ 固定資産：

- 関係会社株式10百万円増などで10百万円の増加

■ 流動負債：

- 買掛金20百万円、賞与引当金8百万円減などで33百万円の減少

■ 固定負債：

- 長期借入金38百万円、繰延税金負債91百万円減などで121百万円の減少

■ 純資産：

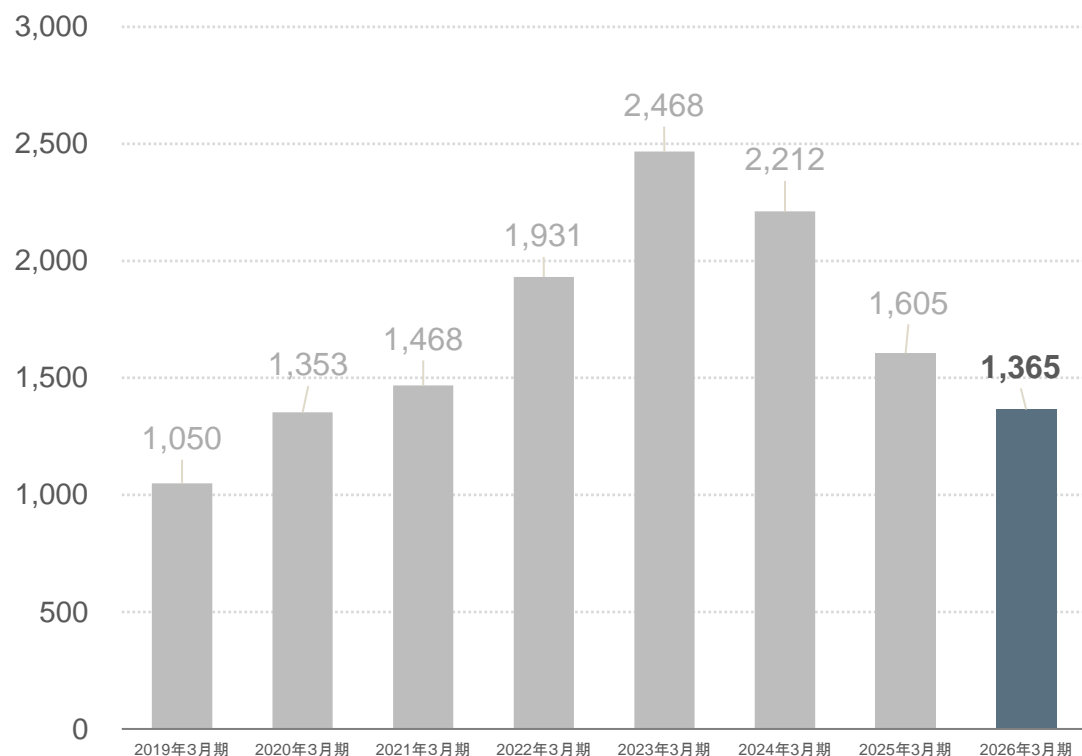
- 資本金及び資本剰余金が新株予約権の行使によりそれぞれ103百万円増、親会社株主に帰属する当期純損失385百万円、その他有価証券評価差額金226百万円減などで47百万円の増加

■ 自己資本比率：

- 以上の結果、自己資本比率は8.0ポイント増加

- 売上高は前期比▲239百万円、▲14.9%の1,365百万円
- 営業利益は前期比▲117百万円の▲388百万円

売上高 (単位：百万円)



営業利益 (単位：百万円)



- サイバーセキュリティトレーニングアーリーナの集約などにより売上は前期比減
- 包括的業務提携パートナーのDS社とのAI・サイバーセキュリティ分野での事業連携に向けた体制構築（協業先の開拓、要員確保、ソリューション開発など）を推進したものの、DS社との事業連携の本格稼働の遅延による売上の伸び悩み
- 前期の主方針に対する進捗は以下のとおり
 - ◆ **企業ブランディングの強化：**
2025年10月6日をもって『株式会社VLC（バイエルシー）セキュリティ』へ商号を変更し、グループ全体のブランドを統一
 - ◆ **サービスラインナップの強化**
サイバーセキュリティ状況を可視化するサービス『SecurityScorecard（セキュリティスコアカード）』、『ペネトレーションテスト 標準シナリオ』、ISMS/Pマーク取得・運用支援ツール『V-Cloud』など着実に強化
 - ◆ **組織体制（特に営業体制）の強化**
与儀大輔氏が専務執行役員 兼 COO(Chief Operating Officer)就任、日本のサイバーセキュリティを牽引し続けてこられた西本逸郎氏が技術顧問に就任

- AI×サイバーセキュリティを新たなアイデンティティに、DS社との事業連携も本格化
- 売上高見通しは前期比+119.6%の3,000百万円、営業利益+688百万円の300百万円、親会社株主に帰属する当期純利益+585百万円の200百万円

2027/3月期（連結）

| (単位：百万円) | 2027/3月期 業績見通し | | | 2026/3月期 実績 |
|-------------------------|-------------------|--------|---------|----------------|
| | 金額 | 前期比較 | | 金額 |
| | | 増減額 | 増減率 | |
| 売上高 | 3,000 | +1,634 | +119.6% | 1,365 |
| 営業利益 | 300 | +688 | - | ▲388 |
| 親会社株主に 帰属する 当期純利益 | 200 | +585 | - | ▲385 |

- AI×サイバーセキュリティを新たなアイデンティティに、DS社との事業連携も本格化
- DS社の日本国内・豪・タイの第1号データセンター案件に対するサイバーセキュリティ・ソリューションの提供の開始。各データセンターの稼働開始時より計上開始想定

2027/3月期（連結）

（単位：百万円）

予想値

補足説明

売上高

3,000

■ DS社の日本国内・豪・タイの第1号データセンター案件に対するサイバーセキュリティ・ソリューションの提供の開始

営業利益

300

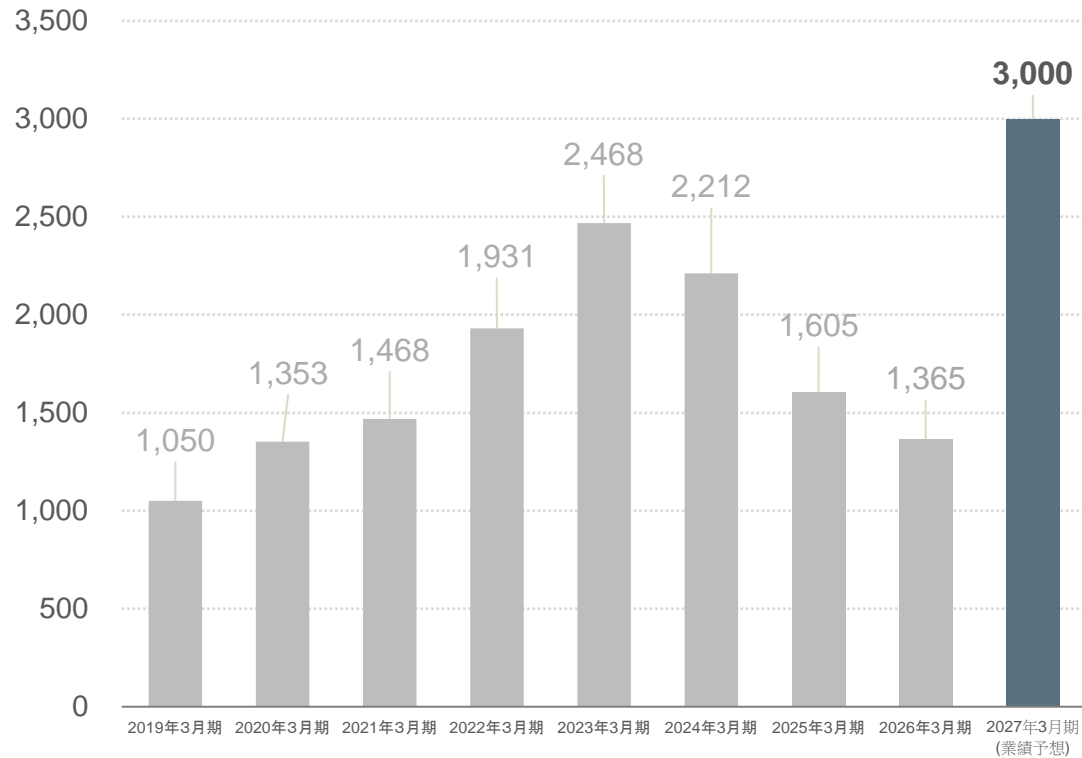
・売上高：
各データセンターの年度内稼働開始時より売上高分の2.0%相当
既存事業も30%以上の成長を想定

親会社株主に帰属する
当期純利益

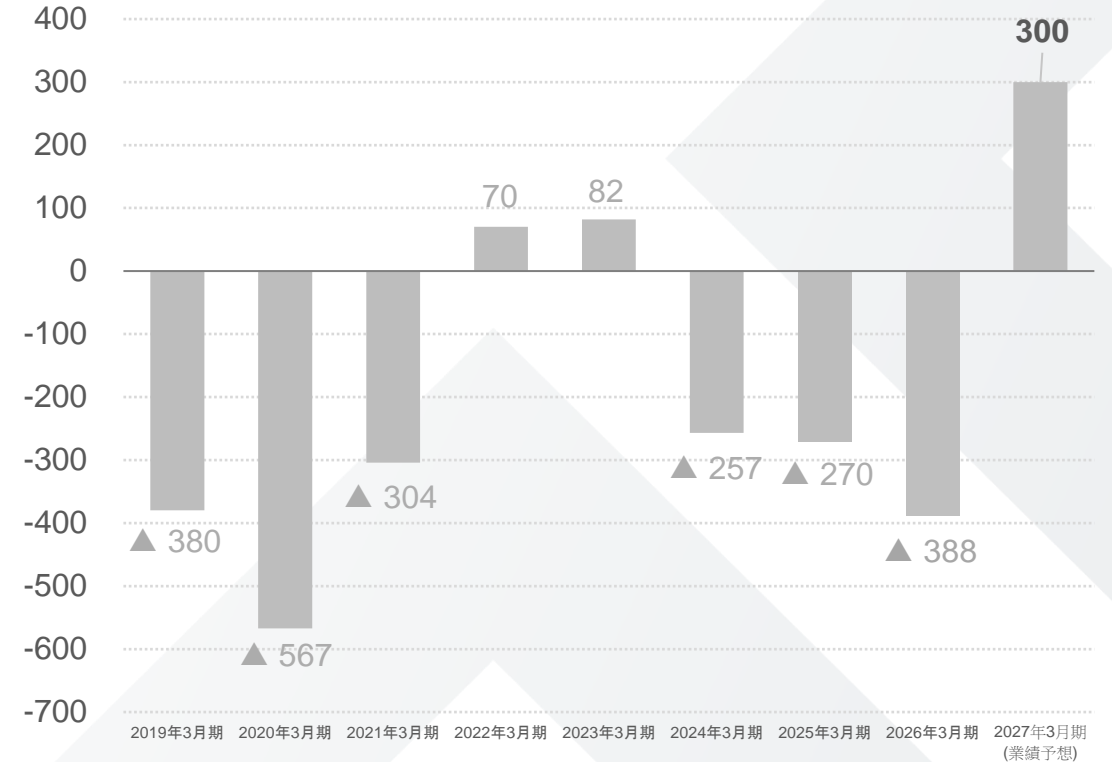
200

■ 売上高見通しは前期比+119.6%の3,000百万円、営業利益+688百万円の300百万円

売上高（単位：百万円）



営業利益（単位：百万円）



■ AI×サイバーセキュリティを新たなアイデンティティに、DS社との事業連携も本格化

◆ 企業ブランディングの強化：

- AI×サイバーを新たなアイデンティティに、AIデータセンターに対するソリューションを中心に、セキュリティ市場における当社グループの存在意義を見直し、顧客への提供価値を改めて具現化することで、より訴求力や貢献力を高める

◆ 組織体制の強化：

- DS社との事業連携の本格稼働へ向けて、データセンター案件に対するサイバーセキュリティ・ソリューションの提供にあたっての継続的な体制構築。データセンター案件に対するサイバーセキュリティ・ソリューションの先を見据えた先行的な体制構築

本資料に記載されている当社の予想、見通し、目標、計画、戦略等の将来に関する記述は、本資料作成の時点で当社が合理的であると判断する情報に基づき、一定の前提（仮定）を用いており、マクロ経済動向及び市場環境や当社グループの関連する業界動向、その他の要因により、実際の業績はこれらの予想・目標等と大きく異なる可能性があります。また、本資料利用の結果生じたいかなる損害につきましても、当社は一切責任を負うものではありません。

本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定はご自身のご判断で行うようお願いいたします。

IR及び本資料に関するお問い合わせ

株式会社VLCセキュリティ
IR担当

https://form.vlcsecurity.com/form/VLCSecurity_IRcontact



株式会社VLCセキュリティ

〒105-0001

東京都港区虎ノ門4丁目1-40 江戸見坂森ビル

<https://vlcsecurity.com/>